



京都成章高等学校
令和7年度 入学試験問題

国 語

受 験 番 号	氏 名

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

プナン社会はエモノや様々なモノを分かち合うことによって、ヒンプの格差がない、平等主義的な社会を築き上げてきました。①
 だとすると、そこにはリーダーはいないのでしょ②うか？

プナンの共同体にも全くリーダーがないという訳ではありません。世襲的ではなく、その場その時に生まれるアドホックな（一時的な）リーダーがいるのです。プナン語では、ラケ・ジャアウ（大きな男）と呼ばれる存在で、英訳すれば「ビッグマン」です。③
 どのように選ばれるかという点、シェアリング・エコノミー、つまり皆で分かち合う経済を他の人たちよりも積極的に行う人物が、ビッグマンになる可能性があります。でも投票で決めたりするわけでもなく、自然にそうなっていくのです。《A》、ビッグマンという社会的地位が先にあってその地位に誰かが選ばれたり、誰かが就いたりするものではありません。言い換えれば、職位に権力が属しているわけではないので、権力が「上」から「下」に発生するわけではないのです。

率先して周囲の人たちに対してモノを分け与えることにより、そのことが人々に評価された結果として、人はビッグマンになるのです。プナン社会の根本原理【④】、【⑤】を最も実践する人物こそが、ビッグマンなのです。

本章の3節で見たように、シェアリング・エコノミーが行われている社会において分かち合うことは当然のこととみなされていて、分け与えてくれた人物に対して謝意を述べることはありませんでした。モノが贈られた時に「ありがとう」という言葉が発せられることはありません。⑥
 プナン語にもまた、「ありがとう」という言葉自体がないのです。

何ごとに対してもすぐに「ありがとう」という言葉を発して、謝意を伝える私たちのやり方は、プナンには通じません。ただ、それに代えて、ほとんど使われる機会はありませんが、分かち合う寛大な精神を称える「よい心がけ（ジャン・クネップ）」という言い回しがあります。分け与えるのは当然のことと考えられていて、その精神が称えられるのです。贈与交換の原理が、私たちとプナン社会では、根本的に違っています。⑦

気前のいいビッグマンのもとにはいろいろなものが集まってくるのですが、集まってくるのはお金やモノだけではありません。誰それがどこで何をしたとか、けがをしたとか死んだとか、どこそこにヒゲイノシシやシカの真新しい足跡があったなどの情報もまた、彼のもとに集まってくるのです。

ビッグマンは、早朝、狩猟キャンプのメンバーが起きていないかまだ起きていないかの時間帯に、みなに向かつて話しかけます。ポトックと呼ばれる朝の会議です。どこそこの川の上流に昨日動物の足跡があったから今日はそちらを目指して狩猟に出かけよとか、オオミツバチが高木に巣を作っているので果実の季節はもうすぐやって来るはずとか、それに備えて毒矢づくりにかかれなどという、生きていくうえで有用な情報も惜しみなく分け与えるのです。

その意味で、ビッグマンの言葉には重みがあるのです。そうした日々の行動によって彼はますますビッグマンとしての地位を安定させていくのです。物惜しみをせずに、モノであってもお金であっても情報であっても、何でも分け与えることによって、彼に対する人々の信頼が高まっていくのです。キャンプのメンバー同士が諍いさかいを起こした時などには、彼の発する言葉は、問題を裁定する重要な指針となります。

さてここで、本章^{*5}2節の、幼児が生まれながらに持っていた独占欲を殺がれていったエピソードを思い出してみてください。誰にでも独占欲が生まれながらにして備わっているのだとすれば、ビッグマンにだってまだ独占欲が残っていないとも限りません。周囲の人々に率先してモノを分かち合うことによってビッグマンとなった男にも、モノを独り占めしたいという欲求は残っているのです。

ビッグマンは、自分のために、《B》『家族のために、お金を貯めたり蓄財したりすることがあります。自らそうする場合もあるでしょう。家族にねだられてする場合もあるでしょう。いずれにせよ、実際に蓄財や貯金が行われると、そのビッグマンは【⑨】になります。その結果、他の【⑩】とのあいだで格差が生まれることになり、平等主義の原理が崩れてしまう可能性が生まれます。

言葉が重んじられ、お金やモノを持つようになると、ビッグマンは権力を意識し、周囲の人々に対して、ソンダイにあるいは傲慢まんに振舞うようになるかもしれません。興味深いのは、プナンは、蓄財するというビッグマンの「穏やかでない」振る舞いを決して見逃したりしないということです。ビッグマンが独占欲を見せ始めていることを察知した人たちはいつたいどうするのでしょいか？ 人々は、当のビッグマンに対して文句を言ったり、述べ立てたりするよりも、そのビッグマンに見切りをつけて、彼のもとから離れていくことが多いのです。いわば、黙って行動に移るわけです。

そうした勘を働かせた人たちは、別の気前のいい、ケチではない、シェアリング・エコノミーをよくするビッグマンのもとに馳はつ

せ参じて、そちらのビッグマンのもとで暮らすようになります。⑬
 います。

〔『ひっくり返す人類学』生きづらさの「そもそも」を問う 奥野克巳〕

【語注】

- *1 「プナン」…東南アジア、ボルネオ島内陸の森林に居住する民族の総称。
- *2 「世襲」…代々受け継ぐこと。
- *3 「本章の3節」…この問題文より前で述べられている部分を指す。*5 「本章2節」も同じ。
- *4 「諍い」…けんかや争いのこと。
- *6 「傲慢」…思い上がって人を見下すさま。
- *7 「馳せ参じ」…急いでかけつけること。

問一 傍線部①②⑦⑧⑩のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ改めなさい。

問二 空欄《A》《B》に入るものとして最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえは イ つまり ウ なぜなら エ あるいは オ さて

問三 傍線部③「ビッグマン」とありますが、どのような人物ですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 率先して周囲の人に対してモノを分け与えることにより、そのことが他人に評価された結果としてなる、世襲的なリーダー。
 イ 率先して周囲の人に対してモノを分け与えることにより、そのことが他人に評価された結果としてなる、一時的なリーダー。

ウ 率先して周囲の人に対してモノを分け与えることにより、そのことが他人に評価され、投票されたことよって就くりーダー。

エ 率先して周囲の人に対してモノを分け与えることにより、そのことが他人に評価され、権力が付与された職位としてのリーダー。

問四 空欄【④】【⑤】に入る言葉として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。なお、解答の順番は問わ

ない。

ア「ケチはダメ」

イ「もったいない」

ウ「備えあれば憂いなし」

エ「褒め合おう」

オ「寛大であるべき」

カ「将来の夢を持とう」

キ「大きくなろう」

問五 傍線部⑥「プナン語にもまた、『ありがとう』という言葉自体がないのです」とありますが、なぜだと考えられますか。その

説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 分かち合う精神を評価する別の言い回しがあるから。

イ 人に謝意を伝えることは恥ずかしいこととされているから。

ウ 謝意を伝える方法がプナン社会に浸透していないから。

エ モノを分かち合うことが当たり前だと考えられているから。

問六 空欄【⑨】【⑩】に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ⑨「新しい者」 ⑩「古い者」

イ ⑨「古い者」

⑩「新しい者」

ウ ⑨「与える者」 ⑩「与えられる者」

エ ⑨「与えられる者」

⑩「与える者」

オ ⑨「持つ者」

⑩「持たざる者」

カ ⑨「持たざる者」

⑩「持つ者」

問七 傍線部⑫「『穩やかでない』振る舞いを決して見逃したりしないということです」とありますが、見逃すと、どのような可能性が生じ得るか、「『穩やかでない』振る舞い」の内容を明らかにしながら、説明しなさい。

問八 傍線部⑬「そういった意味でプナンは、社会的な流動性の高い社会を生きています」とありますが、ここでいう「流動性」とは、どのようなことですか。具体的に説明しなさい。

問九 この文章を読んで、「プナン社会での生活」について、生徒たちが会話をしています。生徒A～生徒Eの発言で、本文の趣旨を踏まえた発言として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A 僕もプナン社会で暮らすことになったら、ビッグマンになってみたいと思ったよ。そのために、周りの人々から投票してもらえるように普段から良い行いをしなくちゃ。

イ 生徒B 本当にそうかな。プナン社会のビッグマンって、自然に決まっていくんですよ。日常生活で何もしない人がビッグマンになるんだよ。特別なことはする必要がないよ。

ウ 生徒C プナン社会では、平等主義的な社会を築き、維持するために、分かち合うことを基本としていて、それを実践することが重視されているようだね。

エ 生徒D 私はプナン社会で暮らしたくないな。だって、プナン社会ってモノが贈られた時に謝意を伝えることがないんだよ。ね。それって、人としてどうなのかな。筆者もこの点に関しては否定的だよ。

オ 生徒E 私もプナン社会で、直感や勘を働かせて自分に合うと思ったビッグマンのもとで暮らしたいな。その方が自分の好きないように暮らせるし、良い環境じゃない？

〔二〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

詩葉は、赤い髪の女性店主・多鶴さんが営むお店（ガレットとクレープの店）で働いている。閉店間際、俳優として有名になることを目指し、オーディションを受け続けていた山城さんという男性がやって来る。山城さんは度々、店に食事をしにきていた。多鶴さんにカウンター席を勧められた山城さんは、放映された自分の演技を見直し、落ち込み、俳優を廃業して、別の仕事を探す旨を告げた。以下の文章は、山城さんが注文を終え、多鶴さんがガレットを作りながら、山城さんに話しかける場面である。

「私はプロのギタリストを目指していた話をしたかしら」

多鶴さんは手を休めずに言った。

「いいえ、初めて聞きます」

山城さんが答えた。詩葉も知らなかった。

「父はギターが好きでね、六歳の私にギターを教えた。いっしょに演奏ができれば楽しいくらいの軽い気持ちだったのだけれど、私の上達が思いのほか早かったので欲が出たのね。本格的にレッスンはじめて、あちこちのコンクールに出場するようになった。私は父のことが好きだったし、みんなに褒められてうれしかった。そのころ、コンクールでよく顔を合わせるエリカって女の子がいた。すぐ仲良しになった。最初は、私とエリカは一位を争っていた。私が一位のときはエリカは二位。逆もあった」

香ばしく焼けてきたガレットをくるりと返して、話を続けた。

「……だけど、いつのころからか私はエリカに勝てなくなつた。エリカだけでなく、ほかの人たちにも。今日は調子が悪かった、練習が少し足りなかったと、あれこれ理由をつけていたけれど、高校生になるころには大きな差がついてしまった。エリカは奨学金を得て海外留学の道がついていたけど、私は相変わらずその他大勢。どうして？ どこが違うの？ 自分でも意味が分からない。練習量を増やしてみたり、今までとは違う曲に挑戦したりしたけれど、変わらないの」

山城さんは真剣な顔で見つめている。

② 「苦しかったわ。……私は父のいい子でいたかった。父の喜ぶ顔が見たくてギターを弾いていた。期待に添えなくなったら、父は

がっかりする。ギターを弾かない自分には価値がないとも思いこんでいたし。そんななかでも練習は続けていたの。練習していれば父は満足していたし、ある日、ぱつと道が拓けるんじゃないかと淡い期待があったから。でもね、だんだん自分でも気づいてきた。エリカにはなにかがあったけど、私にはなかった。いわゆる才能っていうもの。悔しがつても、うらやんでも仕方ないのよ。私は私で、エリカにはなれない。私の道を歩くしかないんだから。……そんな日が続いて、結局、私は音大の試験にも落ちてしまった。そうしたら、手が動かなくなった。体が拒否をしていたのね。自分に正直に生きろって訴えたのよ」

多鶴さんは焼きあがったガレットをカウンターにおいた。やわらかな湯気をあげている。

「ごめんなさいね。この話、食べ終わってからにすればよかったわ。のどに詰まっちゃうでしょ」

「いえ、大丈夫です。続きを聞かせてください。食べながら聞きます」

「そうね。そうして。……それから、あちこちの医者に診せたけれど原因が分からなくて、ストレスからでしょうと言われた。ストレスって便利な言葉よね。父は受験に失敗したからだと思った。気分転換に親子で旅に行くことにした。父と母と私の三人でパリに行った。パリで日本人マダムがいるホテルに泊まったら、食堂の壁にゴージャンの少女の絵のポストカードが飾ってあった。私、それを見て、思った。

——これは私。私がおりにいる。

それがこの絵よ。『ブルターニュの少女たち』

多鶴さんはメニューの後ろの少女の絵を示した。

詩葉は多鶴さんの横顔を見つめた。この人も、同じ気持ちでこの絵をながめたのだ。

フォークを操る山城さんの手が止まった。

「食事が終わっても食堂に残ってその絵をながめていたらマダムが言ったわ。

——この子、いい眼をしているでしょ。叛逆児の眼よ。

私が黙っていたら、また言ったの。

——思いどおりになる人生なんてないのよ。だから面白いんじゃないの。もう、好きに生きたら。誰かのためじゃなくて、自分のために。

それで私は決心がついた。日本に帰ってから父に告げた。自分はプロのギタリストにはなれない。その才能がないことは分かっていたから、別のことがしたいって。父はそうかと言ったまま、黙っている。予想していたことだろうけど、辛かったと思うわ。父の夢も消えたわけだから」

「苦しかったでしょうね。お父さんも多鶴さんも」

山城さんの顔がゆがんだ。

「僕も長男で、ずっと父の期待に応えてきたんです。だから留年したときは大騒ぎでした。……受験勉強して入った大学なのに、なんで中退をするんだ。芝居なんかやって食っていけるのか。そんな夢みたいなことを考えるな。それでも、僕は芝居がやりたいと言ったら、父は怒って部屋を出ていった。それから会っていないんです」

皿の上にはガレットとメルゲーズ^{*3}が、まだ半分残っている。

「そうね。私も父とは会っていない。母とは連絡をとっているけど。私も父も、お互い意地っ張りなの。ねえ、だけど、仲違いするってそんなに悪いこと？ 昔のホームドラマみたいに、茶の間におじいちゃんとおばあちゃん、孫も集まって食べたり飲んだりするのが理想？ まあ、そういう人もいるでしょうけれど。……ほかの人と違ってもいいじゃないの。人それぞれよ」

山城さんは驚いたように顔をあげた。

④「ブルターニュに行ったら交通標識がやたらと多いの。フランス語とブルトン語の二種類あるから。だけどね、フランスに併合されたのが一五三二年。日本では戦国時代よ。学校でフランス語を習うんだから二種類も標識、いらなんでしょう？ だけど、自分たちはブルトン人なんだから、ブルトン語が必要だって頑張った人たちがいるのよ。パリから来た偉いお役人がいやな顔をして、ブルトン語なんて辺境の地の言葉だなんて嗤う^わ人がいても負けなかった。どっちが正しいとか、合理的だとか、そういうことじゃないの。理由なんかいらぬ。自分はどうしたい。それだけでいいの。みんな、人それぞれ。自分らしく生きていいのよ」

多鶴さんは強い眼をしていた。赤い髪が燃えるように見えた。

「芝居をやめるのは負けたからじゃないわ。ひとつの時代が終わっただけ。人生の経験はむだにはならない。次に駒を進めるときなのよ。人がなにを言おうと、どう見られようと気にしない。胸を張って歩いていって。山城さんは山城さんなんだから」

⑤「そうですよ。山城さんはかっこいいです。以前も、今も、これからも」

詩葉は言う。

「そうだ。そのとおりだ。今、ようやく決心がついた。今、宣言をする。僕はきっぱりと芝居を卒業した。新しい道に進む」

山城さんの頬が紅潮した。眼が濡ぬれていた。

「情けないですよ。自分で決めたことなのに、誰かに引導きどを渡してもらいたかったんですよ」

「あのね。ひとつの夢と決別するのは簡単なことじゃないの。今まで『⑥』って大切に手の中で温めていたものを手放すのよ。その辛さは、これまでの時間の長さと思いの深さに比例するわ。怖くて、痛くて、淋さびしいのは当たり前よ」

山城さんは自分の手の平をじっと見つめている。

「観客の拍手、スポットライトのまぶしさ、稽古場の湿った匂い……。それから……。川本かわもとのうれしそうな顔。いい思い出ばっかりだ。全部が大事です……。だけど、今、決心しなかつたら新しい一步を踏み出すことができない」

⑦ 声が震えている。

「大丈夫。ちゃんと乗り越えられるから。私もそうだったから。あのとき決心してよかったって思う日が、必ず来るから」

多鶴さんがぐいと背中を押す。山城さんの口がへの字になった。必死で「⑧」をこらえているのが分かった。

深夜、交通誘導員のアルバイトをしていた山城さんの姿が浮かんた。理不尽に怒られ、ひたすら頭⑨を下さげている。すべては芝居のためだ。

⑩ その時間が無駄になる。

どれほど時間が経っただろう。

山城さんが静かな声で言った。

「ありがとうございます。もう、大丈夫です」

多鶴さんはうなずいた。

⑪ 顔をあげた山城さんは明るい眼をしていた。

「それじゃあ、乾杯。今日という日に」

多鶴さんが三人のグラスに白ワインを注いだ。ワインは光を受けてきらりと輝いた。

【語注】

- *1 「ガレット」：フランス・ブルターニュ地方の郷土料理で、ソバ粉で作るクレープのこと。
- *2 「ゴージャン」：フランスの画家。
- *3 「メルゲーズ」：辛口の香辛料の効いたソーセージ。
- *4 「ブルトン語」：フランスのブルターニュ地方で話される言語。
- *5 「引導を渡し」：あきらめるように最終的な宣告をする。
- *6 「川本」：山城さんを芝居の道に誘った人物で、有名になった俳優。

問一 傍線部⑤⑨のここでの意味として最も適当なものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ⑤ 胸を張って
- | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|---------|---|----------|
| ア | 自信に満ちて | イ | 威厳を示して | ウ | ゆったりとして | エ | こだわりをもって |
|---|--------|---|--------|---|---------|---|----------|
- ⑨ 頭を下げている
- | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|
| ア | 悲しんでいる | イ | 反省している | ウ | 謝っている | エ | 感心している |
|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|

問二 傍線部①「欲が出たのね」とありますが、具体的にどのような欲ですか。二十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②「苦しかったわ」とありますが、当時の多鶴さんがこのような心情になった理由について説明したものと最も

適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コンクールに出場し、たくさん練習する姿をみせていれば、父は満足していたのに、大好きな練習ができなくなり、音大の試験にも落ちてしまったから。

イ 最初はコンクールで上位になっていたが、高校生になるあたりから他の人と大きな差が付き、いつか道が拓けると練習しても、成績はあがらず、父の期待に添えないと思う日々が続いたから。

ウ かつてはエリカとコンクールで一位二位を争っていたのに、高校生になるころにはエリカは奨学金を得て海外留学の道が決まっているのに私は決まっていなかったから。

エ 才能を信じて、練習量を増やしてみたり、違う曲に挑戦したりしたけれど、私とエリカは異なる才能を持つことに気づき、私の道とは何かと悩む日々が続いたから。

問四 傍線部③「原因が分からなくて」とありますが、現在の多鶴さんはこの原因をどのように考えていますか。わかりやすく説

明しなさい。

問五 傍線部④「『ブルターニュに行ったら交通標識がやたら多いの』」とありますが、この例を通じて、多鶴さんは山城さんにど

ういうことを伝えようとしていますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ブルターニュには、一五三二年から、フランス語とブルトン語の二種類の標識があり、交通標識が多いということ。

イ 誰かがいやな顔をしたとしても、必死に頑張った人達は、それぞれその報いを受け取ることができるということ。

ウ 正しいとか、合理的だとかではなく、理屈なしに、感情が動いたならば、即座に実行すべきということ。

エ 自分らしく生きるために必要であるならば、人の意見と違って、自分の思いを主張していくべきということ。

問六 空欄【⑥】に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア もうやめよう イ 次へ進む ウ これだけは エ あれもこれも

問七 傍線部⑦「声が震えている」とありますが、ここでの山城さんの心情について説明したものととして最も適当なものを一つ選

び、記号で答えなさい。

- ア 今までやってきた時間や想いを、他人から否定されて、自分で決めたことではあるが悔しい気持ち。
イ 芝居をやめようと決めたが、今まで芝居にかけてきた時間や想いを名残惜しく思い、手放したくないという気持ち。
ウ 新しい一步を踏みだしたいのに、芝居を続ける決心をしなければ、その一步も踏み出せず焦っている気持ち。
エ 芝居をやめる辛さを乗り越えるために、引導を渡してくれる人が誰なのか分からず、不安に思う気持ち。

問八 空欄【⑧】に入る語を漢字一字で答えなさい。

問九 傍線部⑩「その時間が無駄になる」とありますが、多鶴さんは人生の経験についてどのように考えていますか。本文中より

八字で抜き出しなさい。

問十

傍線部①「顔をあげた山城さんは明るい眼をしていた」とありますが、ここでの山城さんの心情について説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多鶴さんの言葉や励ましを受けて、芝居をやめると言ったものの、未練はあるので、やはり芝居は続けようと前向きな気持ちになっっている。

イ 芝居に対して未練があつたが、多鶴さんの言葉や励ましを受けて、自分の中で考え抜いた結果、芝居をやめることを決心し、新しい一歩を踏み出そうとしている。

ウ 今まで芝居のためにアルバイトなどをしていたが、その時間は無駄だったと考えたため、アルバイトをやめ、芝居に集中することを決心している。

エ 深夜に理不尽に怒られながら、芝居のためにアルバイトをするくらいなら、芝居をやめてしまおうと考えたため、新たな人生を歩もうと考えている。

オ 芝居はやめたくないが、「あるとき決心してよかったと思う日がくる」という多鶴さんの言葉を受けて、すぐに芝居をやめることを決心している。

このページは白紙です。

